



令和3年(2021年)第26週 2021年6月28日(月)~2021年7月4日(日)

# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



手足口病は減少傾向にありますが、引続き警報レベルのため注意が必要です。また、伝染性紅斑(りんご病)の報告が少し増加しています。伝染性紅斑に感染したことがない妊婦さんは特に注意が必要です。

## トピックス 伝染性紅斑(りんご病)について

ヒトパルボウイルスB19というウイルスによる感染症で、頬(ほお)に蝶の羽のような形の赤い斑点ができるのが特徴です。両頬がりんごのように赤くなることから、「りんご病」とも呼ばれ、小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患ですが、成人の感染報告もあります。

症状が似ているので、昔は風しんと思われていたらしいよ。風しんといえば、昭和37年4月2日~昭和54年4月1日生まれの男性で、これまでクーポン券を使ったことがない人は、無料で風しん抗体検査ができるよ。詳しくは「風しんの追加的対策(抗体検査・定期予防接種)について」のホームページを見てみてね。



### ◆どんな病気?

◆**症状**…頬に境界鮮明な赤い発疹が現れ、続いて手足に網目状・レース状・環状などと表現される発疹がみられます。これらの発疹は1週間程度で消えていきますが、なかには長引いたり、一度消えた発疹が再び出現することがあります。成人では関節痛、頭痛などを起こすことがあります。一度感染すると終生免疫が得られますが、免疫不全の人は持続感染を起こす場合があります。◆**潜伏期間**…4~15日程度

◆**感染経路**…飛沫感染、接触感染で、頬に発疹が出る7~10日前に、微熱やかぜ様症状がみられることが多く、この時期にウイルスの排泄量が多くなります。発疹が現れたときには、ウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼなくなっています。

◆**流行期**…一年中みられますが、熊本市では流行した年の秋から春にかけて増加する傾向にあり、ほぼ5年ごとの流行周期で発生数が増加しており、前回は2019年秋~2020年冬に流行しています。

### ◆かかったらどうすればいいの?

- ・特別な治療はなく、対症療法となりますが、ほとんどの場合、合併症を起こすことなく自然に回復します。
- ・妊婦さんが初感染した場合に胎児の異常や流産が起こることがあります。



### ◆予防法は?

- ・現在のところワクチンはありません。
- ・紅斑の時期にはほとんど感染力はなく、またウイルス血症期のかぜ様症状は特徴的な症状ではないため、実際的な予防策がありません。妊婦さんは特にマスク着用や丁寧な手洗いなど感染対策に気をつけましょう。

期 間		2021年 25週		2021年 26週	
		6/21~6/27		6/28~7/4(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症		31	1.94	21	1.31
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.31	6	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		7	0.44	11	0.69
感染性胃腸炎	注意	45	2.81	36	2.25
水痘(みずぼうそう)		2	0.13	1	0.06
手足口病	警報レベル!!	115	7.19	58	3.63
伝染性紅斑(りんご病)	増加	1	0.06	7	0.44
突発性発しん		11	0.69	13	0.81
ヘルパンギーナ		2	0.13	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		2	0.40	6	1.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00